

# 道徳教育研究部

【令和元年5月現在】

主任 浅利 善仁

部員 佐藤 健一, 山内 実

## 目指す児童の姿

多面的・多角的な思考を基に、対話を通して価値観を拡げ、自己の考えを深めることができる

道徳科における納得解を導く姿を、「多面的・多角的な思考を基に、対話を通して価値観を拡げ、自己の考えを深めることができる」と設定し、研究に当たる。

### I 目指す児童の姿について

#### 1 具体として

「多面的・多角的な思考」とは、これまでの自己の体験から感じたり考えたりしたことや、友達を感じたり考えたりしたことを基に、様々な角度からその事象を考察し、理解することである。子どもたちがよりよい生き方をしていくためには、一つの事象に対して様々な見方ができることや、選択肢を多くもつことが大切である。そして、場に応じて適切に判断し、行動できることが重要である。

「対話を通して価値観を拡げ」とは、自己の考えと他者の多様な考えを比較検討する活動や、自己の初めの考えと後の考えを比較検討する活動を取り入れ、考えを深めたり、拡げたり、視点を変えたり、再構成したりすることである。また、友達の考えの底にある深い思いや悩み、価値観を察して共感的に理解しながら自己の考えを見つめ直すことである。

「自己の考えを深めることができる」とは、対話を通して浮き彫りになった多様な価値観と自己の価値観を比べ、自己の考えや行為の傾向を知ったり、客観化して自己の在り方を多面的に検討したりすることである。さらに、導入時での自己の価値観と、授業後あるいは対話後のそれを比べることで考え方の変容に気付くことができる。これが自己の内面の成長に気付き、自己の生き方についての考えを深めることにつながる。

### II 研究内容について

目指す児童の姿に迫るために、今年度は研究内容として以下の二点に取り組み、実践的に明らかにしていく。

#### 1 考える必然性のある問いの設定

価値観を拡げるための対話を設定するには、「考えてみたい」「話し合っって他者の意見を知りたい」という知的好奇心を喚起する必要がある。道徳的な価値の理解を基に得られた一定の解を再考したり、覆したりする問いにより、考える必然性をもたせ、本質を深く掘り下げるようにする。

#### 2 価値観を見える化し、児童の思考や認識を深める対話の設定

問いに対する多様な意見の大まかな種類や全体の傾向、主な意見の要点を押さえる等して、一人一人の価値観を見える化する。そして、思考や認識を深めるために、図表等で類別しながら、児童の捉えの違いを比較検討しやすくする。

### III 研究・検証方法について

研究方法として以下の二点を取り上げ、児童の変容より研究内容の有効性について検証を図る。

1 授業観察記録や映像記録より、発問場面や話し合い場面のプロトコルを基に分析を行う。

2 児童の発言内容や道徳ノートの記述より、道徳性に関わる成長の様子を見取り分析を行う。

#### 【参考文献】

朝倉喩美子他 特集世界一わかりやすい道徳の授業技術解説『道徳教育』58巻10号明治図書, 2018

永田繁雄 連載新・道徳授業論『道徳教育』58巻11号明治図書, 2018

柳沼良太他 『問題解決的な学習』をつくるキー発問50 明治図書, 2018

柳沼良太 『問題解決的な学習で創る道徳授業超入門』 明治図書, 2016